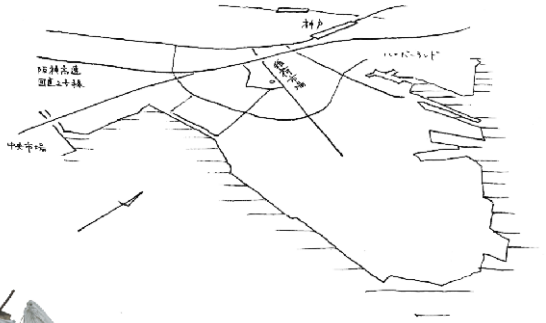


まちのレシピ その⑤

まちをつくるには建築だけではなく、コミュニケーションも大切な要素のひとつ。今回は、材料をそろえてから素材を「しこむ」様子をご紹介します。

文・写真=赤松麻衣 住みコミュニケーションプロジェクト広報担当

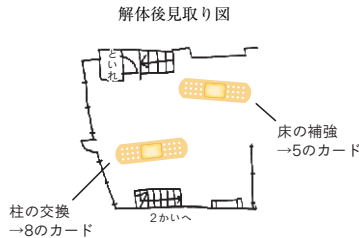


1 今回のお題

素材のしこみ方

住みコミュニケーション

2 一階しこみ箇所



必要な材料や工具がそろい、補強工事のはじまりです。1階は床の亀裂と、腐った柱を新しくするのが補強のメイン。新しい空間にするために、素材を整えます。

3 補強開始

はじめに、地震でひび割れてた床の補強から。コンクリートできている床にはいくつもの亀裂が走っていました。それをひび割れに沿ってきれいにはがし、新たなコンクリートを流し込みました。コンクリートを扱う作業は体力勝負。水分調整が難しいだけでなく、気温・作業時間も仕上がりに影響してくるのでとても気を使いました。

作業は、『もしもし』の先輩である「住みの素（専門的な知識を持つプロジェクトのスタッフ）」の新出真也さんが的確にアドバイスをしてくれ、順序よく進んでいきました。

4 今月の逸材



新出真也さんは大学卒業後、設計事務所働いてます。住宅の設計などを手がけているので、構造に関する知識が豊富。とても頼りになる兄貴分です。

5 コンクリート打設



まずはこねる、ならすの繰り返しです。たちまち足場がなくなり、はしごを渡してひと工夫。コンクリートを流し終えたら、まちの猫たちも立ち入り禁止です。

6 ほっと一息



遅くまで作業が続く中、チャルメラの音がまちに鳴り響きました。屋台のおじさんを追いかけて、湯気のあがるラーメンを待つ。これも下町ならではの風景です。

7 腐った柱

解体作業中、柱の一本が腐って折れていることに気がきました。その柱は長く、容易に入れ替えができません。そこで2階の床をはぎとり、引っこ抜きました。次に新しい柱を立てる作業。しかし天井でつかえてしまい、1階から立てることができません。2階まで運びこんで梁との噛み合いを調整し、やっとの思いで入れ替えることができました。

そして、新しい柱を支える基礎を土間の淵となる箇所と重ね合わせます。淵全体を鉄筋コンクリートにすることで、腐っていた柱が強い柱に大変身しました。

8 柱と壁のレシピ

作り方



梁に垂直になるように杉の角材を立てる



防腐のため根元をペンキ塗りし、アルミで覆う



柱の間に垂木を組み、コンパネをはり付ける



はり終わったら、新しい柱のに入った壁の完成

準備するもの

{ 杉の角材/10×10cm、コンパネ/壁量、垂木/4×4cm、ペンキ/少量、アルミホイル/少々、下げ振り/ひとつ、釘/適量、さしがね/適宜 (下げ振り…糸の先に円錐形の錘を付けたもので、垂直度を調べる工具) }



次回は「チカちゃんハウス」2階の工事の様子を紹介します。